

## 信州発、宇宙を利用した地域活性化を目指して

超小型衛星利用開拓×信州ワークショップ開催のご案内

2010年9月28日

中須賀真一（東京大学）

中島厚（信州大学）

国家レベルでの活動領域であった宇宙開発において、近年、民間の参入が目立ってきています。衛星画像や衛星で収集したセンサーデータを使ったサービスを提供する企業が世界各地で設立されるようになりました。そうした衛星利用ビジネスの分野において、日本が厳しい競争を生き残るため、東京大学の超小型衛星センターを軸として、日本発の「ほどよし信頼性工学」を導入した超小型衛星(50cm 立法、重量 50kg サイズ)による新しい宇宙開発・利用パラダイムの構築を目的としたプロジェクトを開始いたしました（内閣府最先端研究開発支援プログラムとして採択）。本プロジェクトでは、超小型衛星の利用を広く普及させることで、誰もが気軽に宇宙を利用できる環境をつくり、みなさまと共になって、日本における宇宙利用の場を活性化させていきたいと考えております。

### 超小型衛星利用開拓×信州ワークショップ開催

信州は日本で有数の森林県です。衛星の森林リモートセンシング技術を利用することで、どのような種類の樹木が、どの程度の高さや枝の広がり、何本生えているのか知ることができ、森林の管理に役立てることができます。また信州アルプスには、ツキノワグマやニホンジカが生息しています。動物に位置測定センサーを取り付け、その測定データを衛星を利用して収集することで、動物の行動をほぼリアルタイムに追跡することが可能となり、農業被害対策に役立てることができます。このような例をはじめとして、信州には衛星を活用できる機会が多分にあり、衛星を用いた新しい宇宙利用や宇宙ビジネスを発信できる地域のひとつであると考えております。このたび、信州地域の特色が生きる宇宙利用方法の開拓や宇宙の実利用を通じた信州地域の活性化を図るために、超小型衛星利用開拓ワークショップを開催する運びとなりました。当ワークショップにおける具体的な目標として以下の事項をあげます。

- ・ 森林管理、農業、GIS、動物追跡といった様々な分野で活用される人工衛星の技術とその利用例の提案
- ・ 宇宙利用ビジネスを進めていく上で、ボトルネックとなりうる、もしくはなっている点の明確化

ワークショップには、信州地域の方々に広く参加していただき、信州というフィールドで衛星を利用した新しい宇宙利用アイデアや宇宙ビジネスモデルを発案するきっかけの場を参加者のみなさまにご提供できればと考えております。